

「診療報酬改定からみる日本の社会保障制度の展望」

【病院選別化の加速】

2010年度の診療報酬改定は全体で0.19%アップと10年ぶりのプラス改定となりました。民主党のマニフェストで指摘されたほどの増加はなかったものの、長く続いた医療費抑制政策に一定の楔が打ち込まれたことは素直に評価すべきではないかと思っています。

今回の改定は、「救急、産科、小児、外科などの再建」「病院勤務医の負担軽減策の充実」を重点課題として、充実が求められる領域を評価する財源配分がなされました。その結果、急性期入院医療が重点的に評価され、医療現場の実態に対応した内容を重視し、加算による評価を多用した点も今回の特徴といえます。診療実績など医療の質や安全に着目した評価項目が増加しましたが、今回新設された「加算項目」をどれだけ算定できるかによって医療機関の明暗が分かれることになると考えられます。

つまり、診療実績を残せない病院では額面通りの診療報酬増の恩恵を被ることができず、逆に収入減となることもあります。今回の改定により病院選別化(淘汰)がより加速されると予想されます。

【勤務医の負担軽減策】

診療報酬改定の重点課題の1つである「勤務医の負担軽減策の充実」を反映して医師事務作業補助体制加算の大幅拡充や勤務医の負担軽減を算定要件に含める点数項目が拡大されました。急性期病院では平均在院日数の短縮化に伴い、書類作成などに費やす時間も多くなっており医師の本来業務を圧迫している状態です。

当院でもスキル・ミクス(多職種協働)を推進し、医師や看護師など専門職が本来業務に専心できるような効率的な体制を模索しているところですが、今回の改定はその後押しとなるとしています。外科医療の再建策として、手術料が大幅に引き上げられたことは外科系医師のモチベーション維持につながり、大いに評価できる内容となっています。高度な専門性を有する手術については30～50%の引き上げとなり、これまで、どんなに努力しても採算が合わず医療スタッフの労力が報われない手術も多かっただけに外科系医師にとっては朗報となりました。

【医療界からの働きかけ】

今回手術料引き上げの基礎資料となったのは外科系学会社会保険委員会連合(外保連)の作成した試案です。外保連で手術難易度、手術時間、手術に必要な人員などをまとめ、手術にどの程度コストがかかるのかが試算されました。厚生労働省では今回の手術料の改定に関して「コストデータに基づき、エビデンスがあるからこそ、ここまで大幅な見直しを行えた」(保険局医務課)とコメントしています。今後は手術報酬だけでなく他の分野においてもコストやエビデンスに基づく手法を取り入れていく意向のようです。今回、外保連の果たした役割は大きく、大いに評価したいところです。

勤務医のモチベーションを維持するためにも、今後、医師の費やす労力やコストを数値化し、医療者側から積極的に情報発信してい

く必要があると考えます。手術に伴うインフォームドコンセント(手術説明、麻酔説明など)にかかる時間は年間に換算すると膨大な時間です。手術手技料だけでなくインフォームドコンセントにかかる時間なども評価してほしいと考えています。

【急速な社会変化への対応】

長く続いた医療・社会保障抑制政策の過程で「医療崩壊」と称されるまでに地域医療は荒廃し、病院経営も立ちゆかなくなり倒産する病院も増加しました。このような状況を踏まえ、自民党政権下で、従来の医療・社会保障抑制策の見直しが始まり、「小さな政府」路線から「社会保障の機能強化」を掲げた「中福祉・中負担」路線への転換が図られました。

民主党政権では医療費と医師数の大幅増加の目標値を示したものの、その財源に関してはまだ基本方針が定まっていない状態です。社会保障制度は、年金、医療、福祉(介護)からなりますが、急速な少子・高齢化の進行に伴い、社会保障給付の今後の増大は不可避です。現行制度体系が社会変化に対応しておらず、今後、安定財源の確保を含む給付と負担の一体的改革が求められます。問題はその財源をどうするかということであり、さまざまな議論がなされていますが、まだ国民的合意には至っていない状態です。

【中福祉・中負担の社会保障制度へ】

2012年度には診療報酬、介護報酬の同時改定がありますが、国がどのような国家ビジョンを提示できるのか注目されるところです。リーマンショックに端を発した世界同時不況のあおりを受け、昨年の税収は大きく落ち込み、多額の赤字国債を発行せざるを得ませんでした。今後日本の経済が飛躍的に成長するとは考えにくく税収の増加は見込めない状況にあります。窓口負担をこれ以上増やすことも保険診療の意義を考えると困難です。当然、社会保険料や消費税のアップが財源として注目されることとなります。一定レベルの社会保障給付を求めるならば、国民にそれ相応の負担をしていただく「中福祉・中負担」の方針が妥当ではないかと私は考えています。

国民負担率を見ると平成21年度は38.9%程度であり、諸外国に比べてまだ低い水準にあります。これを50%程度まで引き上げなければ、将来の社会保障制度を維持できなくなるのではないかとされています。今回の診療報酬改定に見られたように財務省の財布の紐は堅そうであり、そうなると、当然、国民の個人負担は増大することが予想されます。現今のデフレ不況下において個人の所得格差はますます拡大しており、国民健康保険や年金の未納者も増加している状態です。低所得者へのセーフティ・ネットを強化することも今後の社会保障制度の課題となります。国の社会保障制度の充実度は、その国の経済力に規定されます。今後、日本経済の低成長、マイナス成長が続くと、またぞろ医療・社会保障費抑制政策が頭をもたげてくるのではないかと危惧しています。

島田病院 院長 河崎 収

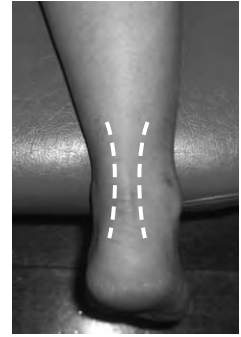
アキレス腱炎

はじめに

アキレス腱は、踵の上部後面にみられる太いスジ状の腱(右図)で、ふくらはぎ(腓腹筋・ヒラメ筋)の筋力を踵の骨に伝える役割があります。ダッシュやジャンプの着地、ストップ動作など、多くのスポーツ場面で負担が集中しやすい箇所の一つです。

アキレス腱炎とは、いわゆる「使い過ぎ(overuse)症候群」の状態ですが、アキレス腱に過剰な負担がかかる原因には、体の使い方や靴・路面、競技の練習量やその内容などが影響します。

ここでは、体の使い方と環境面からアキレス腱炎を予防する方法をご紹介します。



右足後面

アキレス腱炎を起こしやすい動作(例)

以下のような動作を繰り返すことで、アキレス腱全体、もしくは部分的(内側や外側など)に負担が蓄積します。

- ジャンプの着地や踏み込み
- 前後を切りかえすダッシュ
- 走行の方向転換
- 曲線の走行



アキレス腱炎の予防方法(例)

① ふくらはぎの筋肉・アキレス腱の柔軟

筋肉や腱が硬いと、運動時に引き伸ばされる力が強くなり、負担が蓄積します。柔軟は反動をつけず、それぞれ20秒以上かけてゆっくりと伸ばして下さい。



腓腹筋の柔軟

後ろのつま先を正面に向け、ヒザは伸ばしたまま踵が浮かないようにします。ふくらはぎのハリを感じたところで保持します。

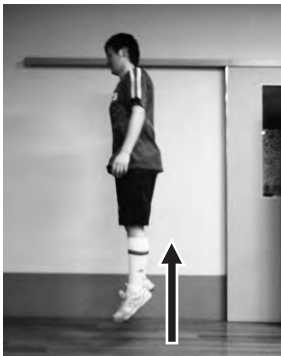


ヒラメ筋の柔軟

「腓腹筋の柔軟」の姿勢から、後ろのヒザを曲げて、踵が浮く手前で保持します。

② ジャンプ着地の練習

アキレス腱にストレスが集中しないように、体全体で衝撃を吸収します。



素早く連動できるように繰り返しましょう



股関節をしっかり曲げて、着地の衝撃を体全体で吸収します。

③ 環境面の調整

予防のためには、環境や用具などの配慮も必要です。

<環境> ・地面が極端に滑りにくい(湿度の高い体育館など)
・地面が極端にやわらかい(芝生の状況や雨による“ぬかるみ”など)

<靴> ・踵の部分の変形
・ソールの内外側が不均等に減っている
・ソールが柔らかすぎたり硬すぎたりする



踵は柔らかすぎず、ある程度しっかりしていて安定しているものを選びましょう



靴の底の内外側が不均等に減ってきたら新しいものに交換しましょう

看護の日 イベントのお知らせ

日時:平成22年5月15日(土) 午前10時～午後3時
会場:島田病院 1Fホール、玄関前

体力測定や骨量測定、体操やゲームなど健康に関するさまざまなイベントを企画しています。皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。お待ちしております。

診療管理部

健康診断について

健康診断は自分の健康状態を知り、深刻な病気を早期に発見できる効果的な手段です。ほとんどの病気は自覚症状がないままに進行しますので、何の症状もないから大丈夫とはいえません。気がついたときには手遅れだった・・・ということがないよう、定期的に健康診断を受けましょう。健康診断は、いわば「ふるいわけ(スクリーニング)」検査です。病気の兆候のある人を探し、より精密な検査が行われます。健康診断はふるいわけ検査ですので精密検査では、病気が見つかるのはごく一部であ

って、異常のないケースがほとんどです。しかし、精密検査によって病気の早期発見と診療が可能になります。「要検査」となっているにも関わらず、そのまま放置していると、健康診断を受けた意味すらなくなってしまいます。自分の健康を過信せず、健康診断の結果によっては速やかに医療機関を受診しましょう。健康診断に関してお聞きしたいことがある場合は内科・植田にご相談ください。

(文責：内科 植田秀樹)

皆様のご参加を、
お待ちしております。

～腰痛解消教室～

腰痛を予防したい・解消したいという方必見の教室です。

日 程：6月7日・14日・21日(全て月曜日)

時 間：3日とも15:00～16:30(90分)

※実施内容は毎回異なります。

費 用：3,990円(税込)

対象者：医師から運動の制限を受けていない方

定 員：先着15名

※お申し込み2名以下の場合には中止とさせていただきます

申し込み期間：5月1日(土)～6月5日(土)

お申し込み方法：①はびきのヴィゴラスに直接お申し込み

②電話またはFAXにてお申し込み



※お問い合わせは島田病院地下1階
はびきのヴィゴラスまで

TEL/FAX 072-953-1007

E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

はあとふるグループ 使命

私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

島田病院 理念

人間愛と確かな技術に基づき信頼でつながるチームで、安全に、心に届くサービスを提供します

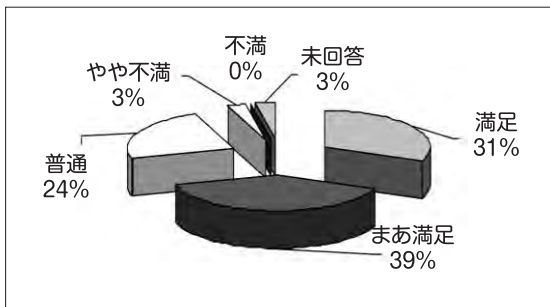


食事満足度調査結果

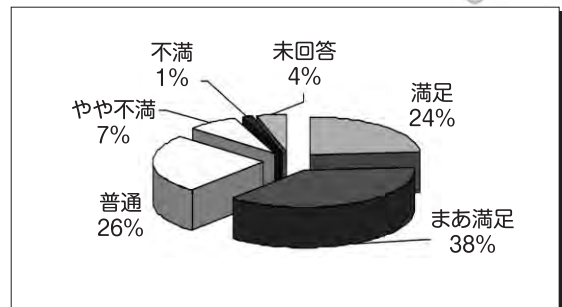
島田病院栄養管理課では、入院中の食事の「質の向上」を目的に、入院患者様への食事満足度調査を実施しております。今回は、平成22年2～3月に実施した食事満足度調査の結果発表です。

対象者:入院患者様100名 回収率:67%(100名中67名回収)

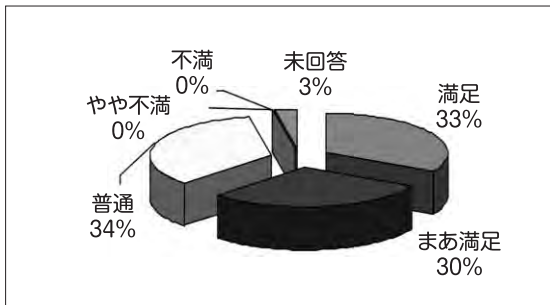
① 食事全体の満足度



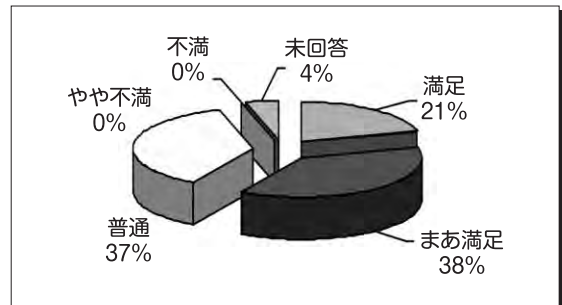
② 食事の味付けについて



③ 食事の温かさについて



④ 盛りつけについて



⑤ その他のご感想

- ・野菜中心に美味しく頂きました。家に帰っても続けていきたいと思えます。
- ・非常に美味しく、色彩豊かに盛りつけられているので嫌いな物まで食べてしまう。特に、きのこ類野菜等、栄養面にも気を配られているのが嬉しい。
- ・天ぷら定食が一番おいしかったです。
- ・高野豆腐の味付け最高!!
- ・献立が選べて良いです。病院食と見えない献立が充実しています。

- ・入院中、リハビリで頑張って回復していくことと、食事が何より楽しみでした。
- ・もう少し煮物は歯ごたえが残っている方がよかったです。
- ・ごはんが少しかたかったです。
- ・汁物が少ない。
- ・小鉢の味付けがまいち。おにぎりが乾いている。

今回の調査結果や頂戴したご意見を受け止め、献立内容、調理方法、味付けについて見直しを図り、また、特に彩りよく食欲をそそるような盛りつけを工夫することで、患者様によりご満足いただける食事を提供できるよう、努めてまいります。アンケートにご協力頂き、有り難うございました。



島田病院では、このニュース・レターが病院と患者さまを結ぶコミュニケーションツールとなるよう願っています。ぜひ、みなさまからのご意見、ご感想を館内各所に設置している「きくぞう君(ご意見箱)」までお寄せください。

